

全国ご寺院の皆さまへ

東日本大震災 三回忌追悼

並びに復旧・復興に向けた法要のお願い

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分に発生した東日本大震災とそれに続く大津波により、太平洋沿岸地域を中心に死者一五、八七九人、行方不明者二、七一二人（平成二十四年十二月二十六日現在警察庁発表）という大災害となりました。また、平成二十四年十二月十二日東日本大震災復興対策本部発表の避難者は、三二一、四三三人に上ります。さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の飛散は、広範囲の地域を汚染し、安心して暮らせるためには、除染作業を含め、長い年月がかかると予想されます。

本会は、政府取りわけ復興庁に対し、被災地の神社仏閣を含めた地域の伝統文化に関わる施設は被災者の方々の心の拠り所であり、被災地のコミュニティ再構築の中核として位置付けられるよう、復旧・復興の計画に盛りこまれる必要があることを訴えております。

さて、厳しい寒さの中、東日本大震災発生から、まもなく二年を迎えます。そこで来る三月十一日、被災地のご寺院はもとより各ご宗派のご本山、全国のご寺院におかれましては、亡くなられた多くの方々の三回忌を追悼し、一日も早い復旧・復興成就を祈願する法要を厳修いただき、併せて、地震発生時刻の午後二時四十六分に、梵鐘を撞いていただきたくお願いを申し上げます。被災された皆さまにおかれましては、さぞかし大変な、苦悩の日々をお過ごしのことと存じます。この法要が、ご遺族はもとより、深い悲しみの中にある全ての方々の心に安らぎの灯を点し、これから共に歩むべき道を照らす一条の光となりますことを願っております。

大震災の復旧・復興は、ようやく緒に就いたところであります。私たちは協働し、長い支援を志してまいります。どうぞ、皆さまの温かいお心とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十五年一月十八日

公益財団法人全日本仏教会

会長 半田孝淳